

村山民俗学会

第 409 号

発行日 2025 年 11 月 1 日

発行責任者 相原 一士

編集担当 岩鼻 通明

木村 博『般若心経秘鍵』の功德」と永（栄）蔵坊文書 その1

野口 一雄

探し物をしていたら、書籍にはまったコピーが出てきた。B5 判一枚、木村 博さんが相模民俗学会『民俗』第 172 号（発行年月不明）へ投稿した記事である。生前長く村山民俗学会の会員だった。私は参加できなかったが、村山民俗の有志で木村さん自宅、伊豆半島・伊東市を訪問したことがある。自宅は民俗を学ぶ若き学徒が合宿をしたところでもあった。

木村さんは上山市出身。加藤和徳さんが集団就職で上京、木村さん親族経営の工場で働き木村さんと巡り合ったことが、加藤さんの石仏等研究への出発点となった。加藤さんは生涯、木村さんを我が学問の師、人生の師と仰いだ。

1991 年（H3）6 月、村山民俗の会（当時）設立 5 周年に記念講演された桜井徳太郎先生を囲み、木村さんの上山温泉定宿旅館で開いた懇談会も懐かしい思い出である。

前段が長くなりました。表題について、要点のみ記します。

・・・どうせもう助からぬ末期の病人が、長く苦しんでいるようなときは、お寺に行って「ジシブン（理趣分）〔手持ち『修験三時勤行式』に、「般若理趣経」が載っている〕をク（操）って貰う」というのであった。・・・弘法大師（空海）の著述に「般若心経秘鍵」がある。・・・「般若心経秘鍵」は、殊更「安楽死」を説いている訳ではないが、「空」の教えからすれば「安楽死」に連っても一向に不思議はないのかもしれない。・・・四国地方では「般若心経秘鍵」が「大般若理趣分」と同じような「安楽死効果」の信仰を持っているらしいことを最近になって知った。・・・香川県の『綾南町誌』（第九編・民俗）の中に、「真言宗のお経に秘鍵（ヒケン）というのがあるが、この経を読むと重病人は早くお参りする（死ぬ）か、病気が良くなるかするという。・・・もし、このような事例をご存じでしたら、是非お教え願いたく・・・」

と、「般若心経秘鍵」読誦は安楽死効果があると信じる地域について記している。

山寺夜行念仏調査（『山寺夜行念仏の習俗 調査報告書』H17.3 山形県教育委員会）で、当時山形郷土館が保管していた寒河江市平塩熊野神社「永蔵坊文書」を調査した。

そのなかに、下記の文書があった。

表題「般若心経秘鍵」 裏面「湯殿山法度 拾三佛之詩」

天正廿年（1592）壬辰卯月廿七書畢右筆肥前深泉 1 帖 平塩村永蔵坊持主宥遍御湯殿山法度

敬白周遍法界摩訶毘盧舍那因縁果満備盧遮那界會末代教主大日如来之御前=謹言 抑